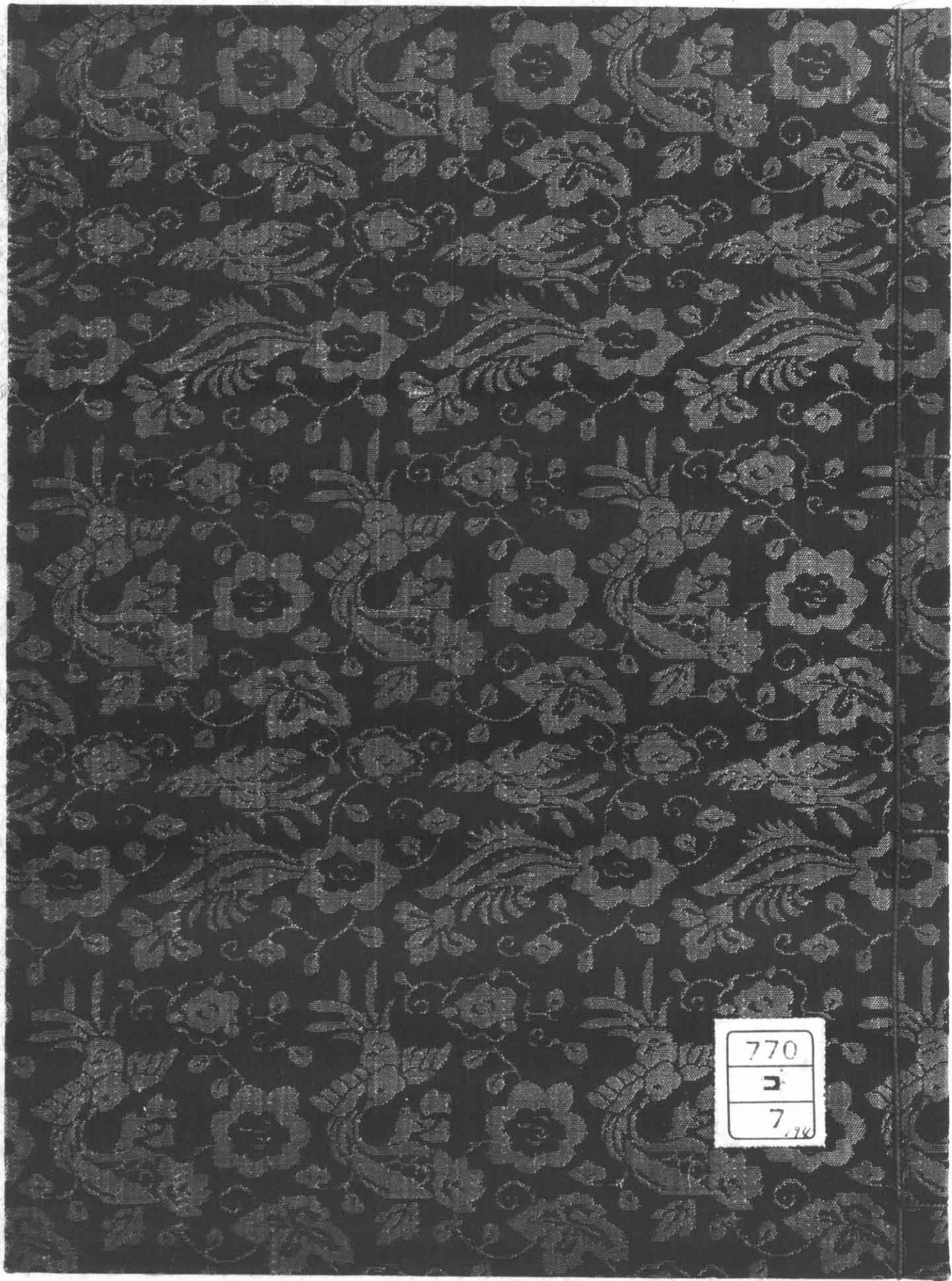


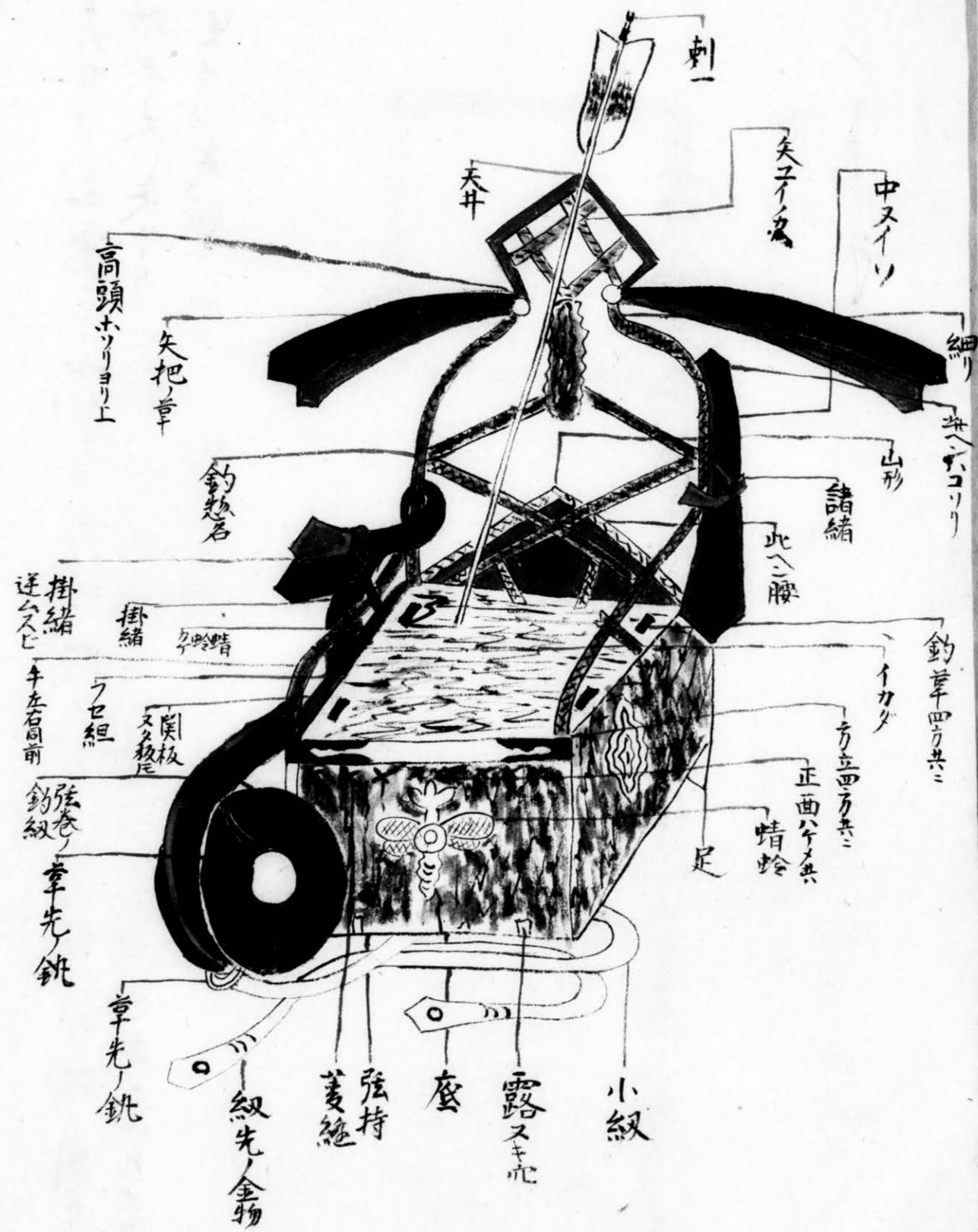
0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI



770
3
7.70

770
3
7

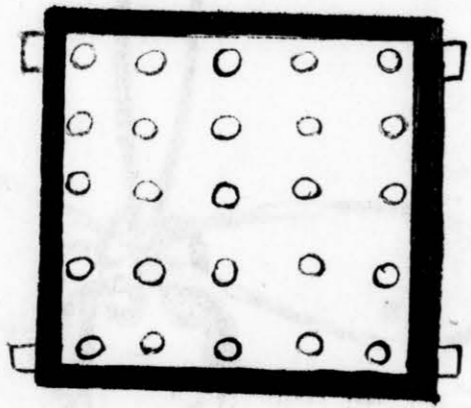


一
矢カラニ三重々子細有古法ハ板ノ草ヲ以テ凡ク穴ヲ明テ用タレ
然共夫ハ矢ナリテ悪シ今用ハ源三位頼政之家傳也矢之十九度
モナリ大根ヲサスニモ能也口傳

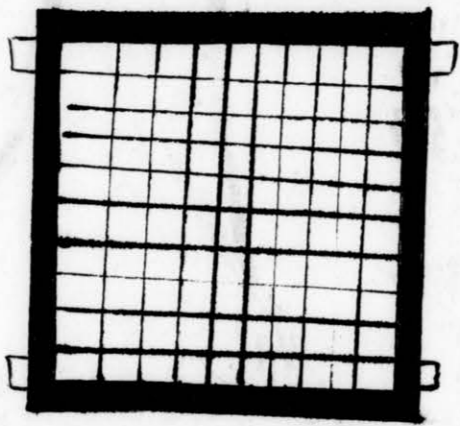
古法之矢カラニ

源三位頼政家傳之矢カラニ

板メ草ヲ合セテ刺立
穴ヲ明テ後ニ塗口傳



是ハ矢把ノ草ヲ一節通シ
ウスク平タクハシク付ヘシ



物ヲ鉄ヲウスク
四角ニシテ打緒ヲ
通ス極ニ穴ヲ明テ
上ヲ黒草ニテ包
中ハ打緒ヲ通ナリ

鍮之胴ニ打タル箆付ノリハシ也
寸法外之空金ニテ七分程ナレハシ

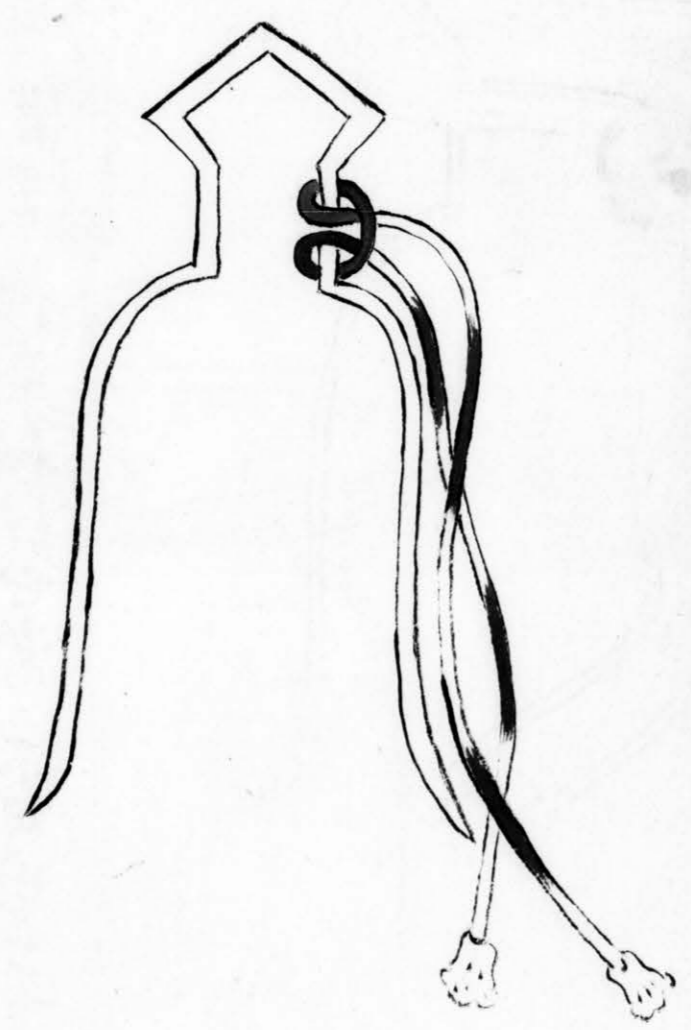


此掛様以上五色口傳フカシ

常ハ鷹之大猪ノ
コトサリサリヨリナリ

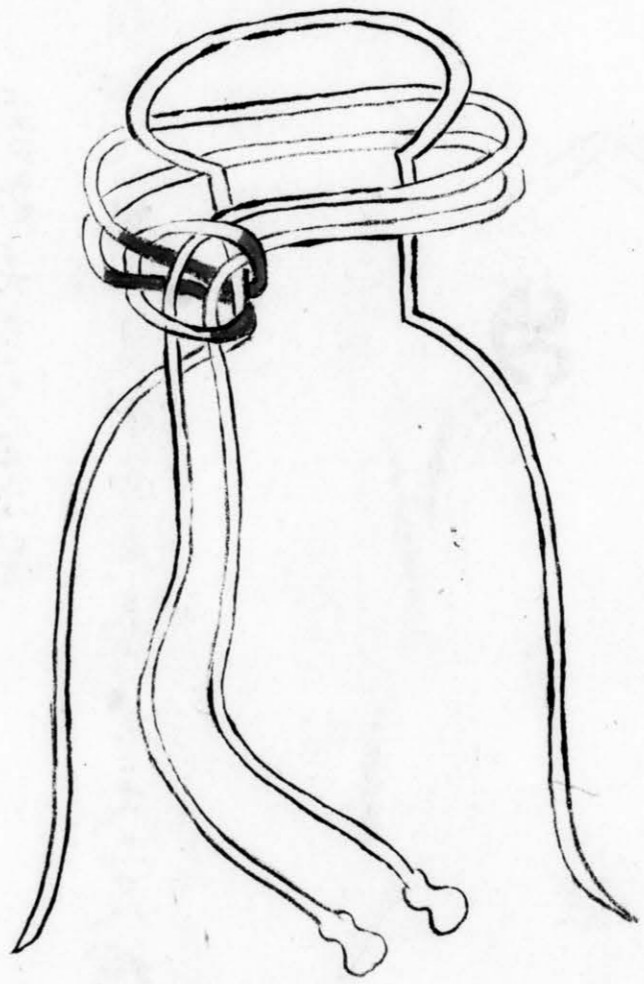
乱刺夫カラフニ之忌

一表第如此掛ハ夏肝要也長サ壹丈二尺程可然也

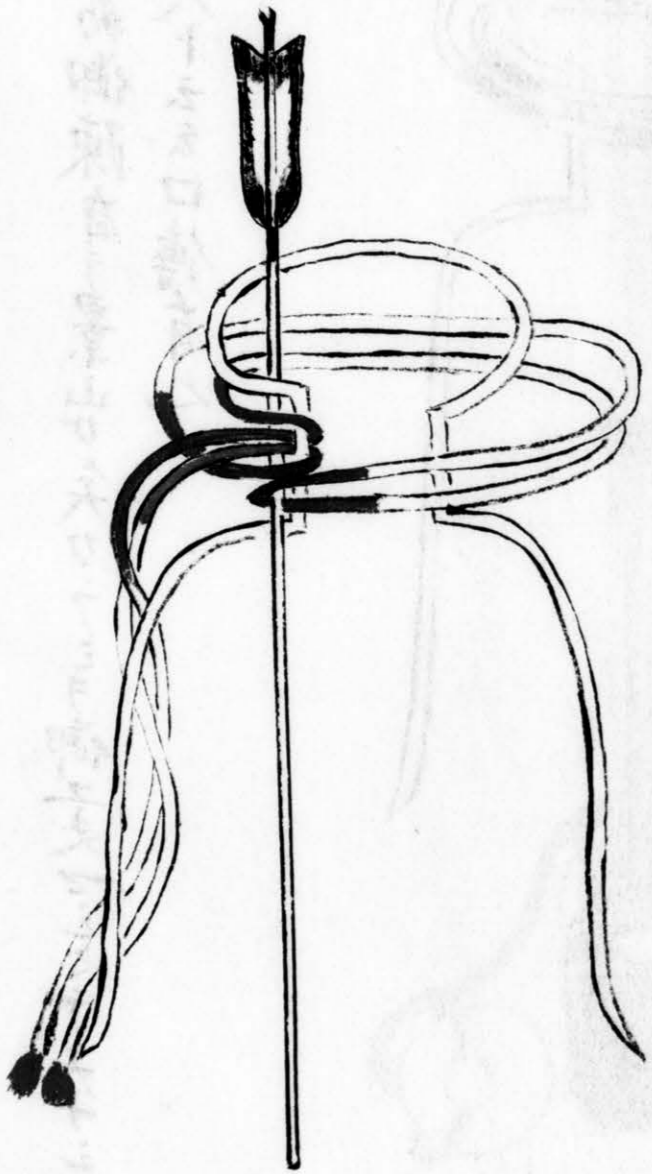


乱刺秘傳之圖

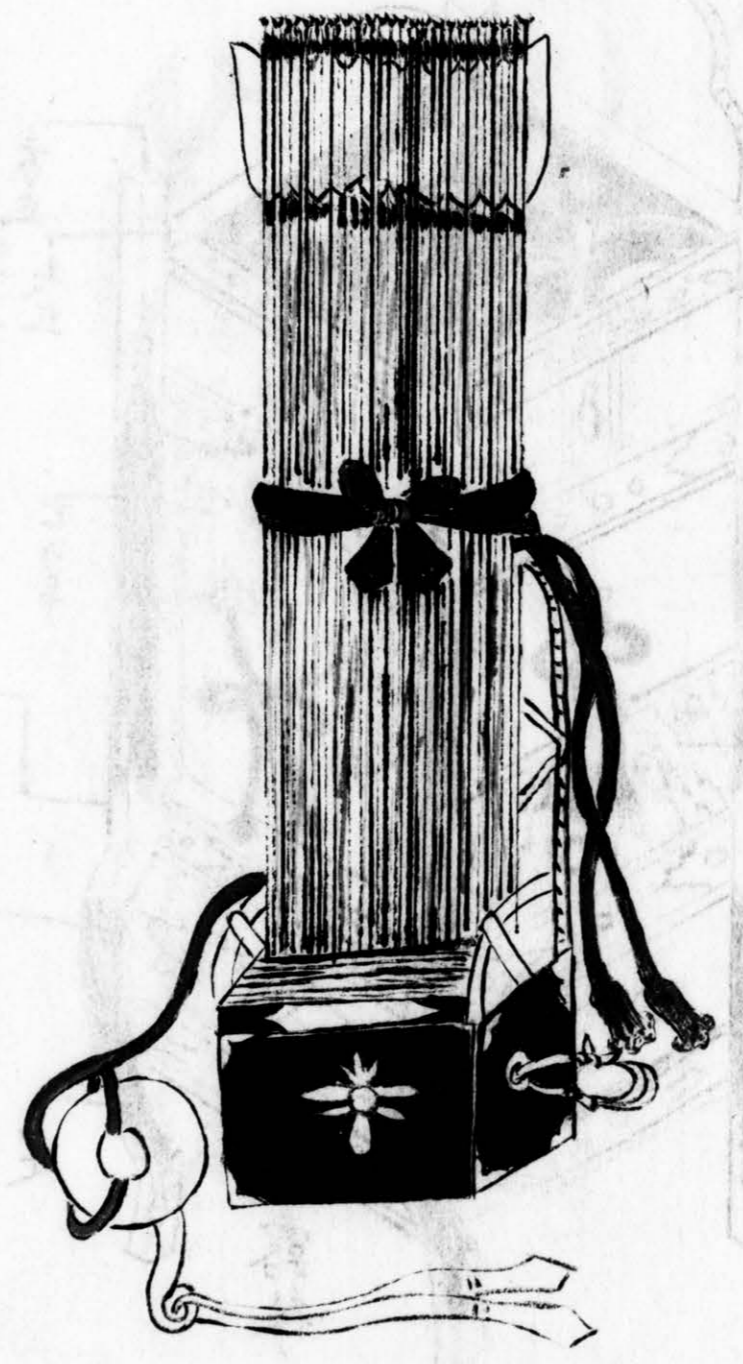
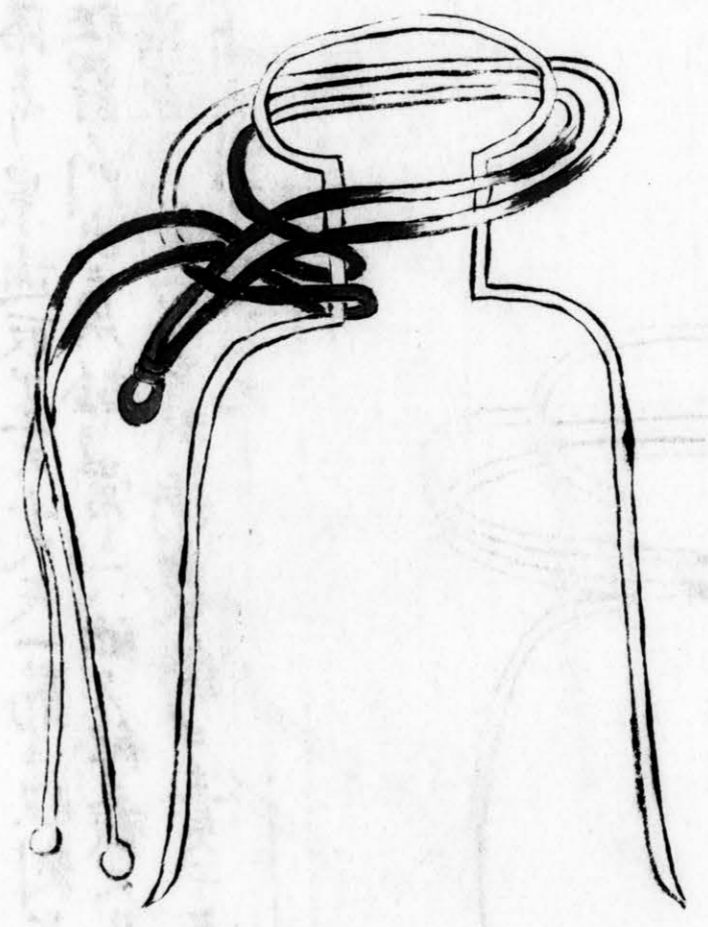
一 此矢カラミハ昔ヨリ傳來秘説也常ニ不可用一子之外努クニ傳授
ナキ事也



一 此矢カラミハ家ノ大事也 八幡殿奥品御陳之時敵之射ル矢ニテ
矢把切落ル景通取アエス矢一節ヲ以刺苗クリ則源家ノ吉例
トシテ征討ノ門出ニ用給フ常ニ此ノ秘説スル儀ナリ在徳三年土月
奥品清原武則ク子武衛家衡ヲ責ニテ遂ニ焚城時モ用之
タモウト云々口傳有之



一義家公奥刃御陳有テ景山カ矢カラミヲ御子更マシテ矢ナシニカラム
 秘也准授一人ト云云口傳有之

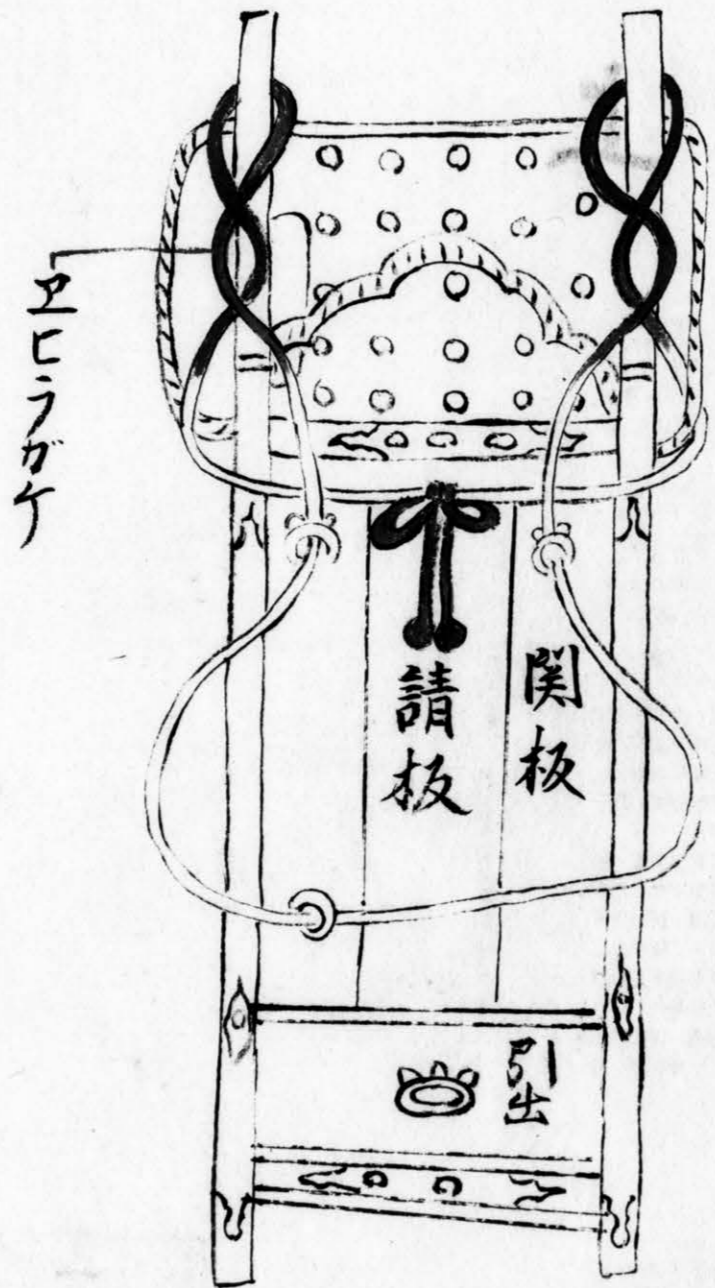


調度懸名所

前 正面



後 胴中



大正十一年
十月八日
調度

文政十三庚寅六月吉日

上羽又兵衛



上

九州大學圖書印

